

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚 陵子	法人・ 事業所 の特徴	『住み慣れた町でその人らしく穏やかに暮らすことを支える』を理念に柔軟なプランを提供している。ターミナルケアへの対応もしており、常勤看護師中心に家族支援も含め穏やかに最期を迎えられる取り組みをしている。訪問体制も強化しており、きめ細かなサポートで在宅生活を支えている。地域連携強化に努め、地域に根差した事業所を目指している。
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚 陵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	5人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	記入期間に余裕を持たせ振り返りをしっかり行えるようにする。	個別の説明書とともに記入期間も余裕をもたせ自己評価に取り組んでもらえた。	評価点とともに個別の意見も各自しっかり記入されている。全スタッフが取り組んでいる。	評価の中で、なぜできなかったのかという点について掘り下げていく。個別のスキルアップ強化に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	修繕箇所も増えてきているので、助成金などを利用し設備を整えていく。	修理箇所もでてきているが、予算をたてながら修繕に取り組んでいる。助成金の活用はできなかった。	感染対策で事業内開催ができないため中の様子がわかりにくい。次年度は施設内での開催ができるといい。	会議開催を事業所内で開催ししつらえ・環境の確認を行っていただき意見を吸い上げる。
C. 事業所と地域のかかわり	地域と事業所の連携を持つためのイベントを企画し交流を深める。	地域行事に参加するよう前向きに取り組んできたが、事業所内での企画開催に地域の方をお呼びすることはできなかった。	地域の行事には積極的に参加してほしいと思っているので常に声掛けはしていく。関わりやすいと思う。	地域行事(夏祭り)への参加。地域イベントへの積極的な参加を継続していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	全スタッフが利用者の暮らしぶりを知る機会を持つ。地域資源にも目を向け活用に向けた話し合いを行う。	訪問回数も増加しスタッフが地域に出向く機会が多くなっている。会議の中でその人の暮らしぶりについて話し合いをすることができた。	訪問回数が多くきめ細かい対応をしていることがわかる。	地域の暮らしぶりを知る中で個々の支援に生かせることを話し合っていく。民生委員との意見交換を行う。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	地域連携強化を図りながら更に会議への参加スタッフを増やし活発な意見交換ができるよう進めていく。	年6回の推進会議にスタッフの参加は継続できたが、参加メンバーの高齢化もあり新たな参加メンバーの検討も必要になってきている。	家族の参加も検討すると良いと思う。毎回は難しい場合は単発でもよいのでは。民生委員さんにも声掛けをしてみる。	参加メンバーを変更し視点を変えた意見の吸い上げを行い運営に生かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	年1回計画の見直しを行いながら更に内容強化を図る。災害に備えた備蓄品の増強。訓練回数の増加。	全スタッフによるBCP計画の見直しを行った。備蓄品の増強、訓練、研修などの取り組みも計画通りに進められた。	地域にとっての精神的な支えとなれる事業所だと思う。BCP計画の内容を運営推進会議でも説明してもらえると良い。	運営推進会議時に災害訓練を組み込めるよう計画し、意見交換していく。